

HPアドレス <http://www.hbi-wmc.org>

郵便振替口座：02720-9-19238



## 甘くて苦い神のことば ヨハネの福音書10章1～11節

日本福音キリスト教会連合友好教会  
札幌国際キリスト教会・牧師

**池田創造**

「私はその御使いのところに行き、『私にその小さな巻物を下さい』と言った。すると彼は言った。『それを取って食べててしまいなさい。それはあなたの腹には苦いが、あなたの口には蜜のように甘い。』そこで、私はその小さな巻物を御使いの手から受け取って食べた。口には蜜のように甘かったが、それを食べてしまうと、私の腹は苦くなつた。すると私はこう告げられた。『あなたはもう一度、多くの民族、国民、言語、王たちについて預言しなければならない。』」（ヨハネの黙示録10：9-11）

ヨハネの黙示録全体を読んで行くと、神の啓示を取り次ぐように召されたヨハネの葛藤が垣間見えます。主の民である教会に残さなければならぬものは何か。果たして自分がその大役を担うことができるのか。その大きな責任に押しつぶされそうにされつつも、主から託されたものをしっかりと受け止め、また伝えようとする、ヨハネ自身の姿から多く教えられます。

ヨハネの黙示録10章1節から3節では、天から降りて来られた「一人の強い御使い」が描かれています。この御使は神の栄光を帯び、「右足は海の上」に「左足は地の上」に置き、その「手」には「開かれた小さな巻き物」を持ち、両足を踏ん張りながら「叫」びました。

この幻を見ていたヨハネは書き留めようとしました。しかし神からの命令は「『それを書き記すな』（黙示録10：4）というものでした。黙示録1章11節では、七つの教会のために“書け”と言われたヨハネは、今度は“書くな”と言われました。

神に仕える者はひたすら神の告げることに耳を傾け、受け止める必要があります。ヨハネは筆を置きました。

「強い御使い」による神への誓いの言葉の後、「書くな」と命じた天の声が、再びヨハネに語ります。「『行って、海の上と地の上に立っている御使いの手にある、開かれた巻物を受け取りなさい』」（黙示録10：8）。“書くな”と命じた天の声が、今度は“行け”そして“受け取れ”とヨハネに命じました。従順なヨハネは、「『私にその小さな巻き物を下さい』」（黙示録10：9）と「強い御使い」に告げました。

ヨハネは「強い御使い」を前にして恐れを抱いていたことでしょう。しかしそれ以上に、神の命令が絶対であると確信していました。ヨハネはイエス様の教えを死守し、福音宣教のために流刑に合い、孤島パトモスで孤独の極みを味わっていました。それは終末の出来事を知るための環境でした。パトモス島で幻を受けるなか、倒れたら引き上げられました。御使いと共に祈ったり、賛美をささげることもありました。沈黙もありました。彼は恐れを抱きつつも、理解できなくても、到底納得できなくとも、すべてのことを益としたもう神に信頼しきって、「『私にその小さな巻き物を下さい』」と「強い御使い」に告げました。

「強い御使い」は「『それを取って食べててしまいなさい』」（黙示録10：9）と命令しました。ヨハネは「巻物」をもらいに行きましたが、ここではあくまでも取るように命じられています。ヨハネは自らそこに赴き、手を伸ばして、巻物を取る必要がありました。神のことばは、一方的に与えられるものではなく、自ら行動して取りに行くものです。みことばの前における飢え渴き、探究心が求められました。更に、ヨハネは二つ目の命令として「『食べてしまいなさい』」と言われ、「巻物」を残さずに食べなければいけませんでした。

ヨハネは、命じられた通り「小さな巻き物」を

食べました（黙示録10：10）。「強い御使い」が告げた通り、最初は甘く、後で苦みが生じました。第二コリント2章14節から17節で教えられているように、神のことばは人を「いのち」または「死」に定めます。神のことばは、ある者にとっては「死から出て死に至らせる香り」であり、ある者にとっては「いのちから出ていのちに至らせる香り」です。「このような務めにふさわしい人は、いったいだれでしょうか。」と、その責任の重さゆえにパウロは叫んでいます。神のしもべは「神のことばに混ぜ物」をすることなく、御旨をすべて語り尽くさねばなりません。

ヨハネの黙示録10章11節でヨハネはみことばを取り次ぐ者としての使命を再確認させられました。「すると私はこう告げられた。『あなたはもう一度、多くの民族、国民、言語、王たちについて預言しなければならない。』」大宣教命令（マタイ28：18-20）ともいうべき内容です。ヨハネは甘くて苦い神のことばを食べた者として、あらゆる人に福音を伝える責任が与えされました。

ヨハネにとって「小さな巻き物」は、甘くて苦い神のことばであり、神の福音を伝えるための必要不可欠なものでした。神のことばは、私たちにとっても甘くて苦い神のことばです。甘い部分のみを欲することがないようにしたいと思います。辛いこともあるでしょう。自暴自棄になることもあるでしょう。多くの期待に押し潰されそうになることもあるでしょう。孤独の極みを味わうこともあるでしょう。問題の解決を長く待ち続けなければならぬこともあるでしょう。私たちはパトモス島に置かれたヨハネのような存在です。もし如此であれば、私たちにも神のことばは開かれています。神の奥義が示されています。それで十分なのです。甘くて苦い神のことばによって、人は新しく生まれます。甘くて苦い神のことばに信頼して、主の教会に仕えさせていただきましょう。

## 本科卒業生



左から、百古楽、西村忠光、武田良実、片岡智和、鍛治大使

## 卒業生の証し

Hokkaido Bible Institute

奉仕先　日本福音自由教会協議会  
洛西上里チャペル

### 本科卒業生　鍛治 大使

主を心から賛美し、主に感謝をささげます。罪の葛藤に彷徨う中で、なお主をもっと知りたいといいう一心で、短期信徒コースに入学した三年前。みことばを伝える者として、北海道聖書学院を卒業し、派遣されるに至ったことは、主の恵みであり、教師、講師、学友、諸教会の皆様の励ましと慰め、愛があつてのことを憶えます。

この3年間は、主の恵みとはいかなるものか向き合う日々であったように振り返ります。聖書をどのように読むのかというところから学び。主の与える恵みを心から感謝し喜んでいる先生の生き方や説教から学び。ひとり主との交わりの中でそのことを教えていただきました。主の恵みを知り、広がり深まるにつれ、私に自由と平安が豊かに与えられていることを、受け取っていくことができました。主は己の弱さに向き合うようにと、役に立つ器にするために、私に様々な所を通るようにしてくださいました。また、罪を覚え沈む日も、朝ごとに、新しい日を主が私に与え、主の恵みとまことに立って、生かされた者として歩むようにされました。今はわからないことも、私がおよび

もつかないほどの高き岩の上に導いてくださる主に信頼し、今なされていることは主の最善がなされていると、みことばの土台に立っていくようと学ぶことで、喜びが与えられていきました。

知り尽くすことのできない恵みを与えてくださった主を心から賛美します。そして、主の与えてくださった良き知らせを伝えることができる恵みを感謝します。全ての栄光を主に帰します。

奉仕先

日本福音キリスト教会連合  
糸井福音キリスト教会

### 本科卒業生 片岡 智和

この度、卒業を迎えることになり、3年間導いて下さった主に感謝すると共に、これまで祈り支えて来てくださった多くの方々を覚えて、心から感謝申し上げます。

入学に際して、献身者としての学びをしていく事に、これまで一般的にも、聖書においても特別勉強した事のない私が、召されたとは言ってもここでどう過ごすのか想像できず、多くの不安がありました。

その不安の中、特に教えられたと感じる事は、神様の恵みの大きさ、豊かさについてでした。以前から相応しくないものに与えられるのが恵みである、とは覚えていました。しかし、入学し学びを続ける中で、共に学ぶ学生がとても素晴らしい見える中、自分はどうなのか、全然ダメではないか。私は何者なのか、と考えるようになりました。そうして、神様の恵み、あわれみについてよく考えさせられる中、パウロの語る「私はその罪人のかしらです」という告白や、聖書に語られる多くのことばを見て、恵みについてもっと深い、大きな物があるのを教えられ、私は何者なのか、とは驚きのことばとなりました。

教えられた恵みには神様と自分の関係だけではなく、兄弟姉妹達との交わりにもありました。主を信じ喜ぶ者として共に祈り、賛美し、神様について、聖書について話すこと。また、普段の雑談の闇りにおいても、主にある交わりの全てがどれほど素晴らしい恵みであるのかを経験する3年間だったと振り返っています。

これから働きの中で、なぜ、できない、と思うことが何度もあるのだろうと思いつますが、いつも、自分のやるべき事をし、主が事を成してくださると信じて、また、主が与えて下さった交わり

において、支え励ましあって主に仕えていきたいと思います。

奉仕先

日本同盟基督教団  
新札幌聖書教会

### 本科卒業生 武田 良実

2017年、妻として、伝道師夫人として、神学生としての生活が同時にスタートしました。中学二年生の時に直接献身の召しをいただいた私は、牧師に必要とされる英語習得のため語学留学をし、大学では神学を学んできました。牧師への道を順調に歩んできました。しかし、このHBIでの三年間はそれを何度も覆し、召しとは何かを問い合わせ続ける時となっていました。所属する教団の教師になるためにHBIへの入学を決め、一年目は、大学に続いて神学を学べることが嬉しくてたまりませんでした。神学校ならではの深くて濃い学びと交わりがこんなにも楽しいのか！と幸せを感じていました。しかし、1日中真剣に学ぶと体は疲れ、家に帰ると夕食の準備と家事が待っています。したがって幸せがいつしか、苦痛に変わっていきました。二年生の後半からは教会の働きに集中せざるを得なくなり、休学も考えました。また、教職にならずとも、教職の夫人としても神様と教会にお仕えできるのではないかと自分の召しを変えようともしました。自分で選んだ道なのに、どうして…と祈り求め続けていましたが、主は多くの交わりとみことばの機会を用いて確かに私を教職者として召しておられることを再確認させて下さったのです。授業、夏期伝道実習、海外研修、チャペルでのメッセージ、卒業論文、様々な交わり、そして学院の多大なるご配慮があって、自分で選んだのではなく、主が選んだ道なのだとということを教えられました。召しを確かにしているとき、主と教会を愛し仕事をこの三年間、この神学校で教えていただけたことは、これから先の牧会人生において何度も振り返ることができる大きな恵みとなることでしょう。

奉仕先

グレース・カバナント・チャーチ  
(ニュージーランド)

### 本科卒業生 西村 忠光

HBIの入学試験を昨日のことのように思い出します。入学が許可された時、私は大きなため息とともに、ホッと胸をなでおろしました。嬉しかったからです。そして今、卒業証書を受け取ることが許され、卒業できることもまた本当に嬉しいことであります。けれども、入学と卒業の間の3年間、これは本当に大変でした。支えてくださった学院長、教師・講師のお一人おひとり、また所属教会・奉仕教会の敬愛する兄弟姉妹の皆さん、共に学んだ学院生お一人おひとりに心より感謝申し上げます。これから私はニュージーランド（フライト前に入国禁止となり、現在は家内の実家の茨城で骨を休めております）に行きます。救われてから17年、特に母教会の震災支援の働きから数えれば9年の間、私を支えつづけてくださった教会を訪問し、感謝報告をするとともに、立ち止まる時を持ちたいと願ったからです。というのも、私はHBI入学当時から自覚がありましたが、東日本大震災を踏まえた6年間の災害支援の働きの後、深い疲れを抱えていました。そしてHBIでの3年間もまた、結果的に走り続けることとなり、それは私にとって非常に素晴らしい訓練の時となりましたが、9年間しゃにむに突き進んできた今、しばし立ち止まって、今後の足どりについて、じっくりと祈る時を持つことを望んだからです。深い休息と充電の時を持ちたいと願ったからです。主が注いで下さった恵みを一つ一つ数える、そのような時を持ちたいと考えたからです。最後に、この3年間共に走った愛する家内と2人の子供達に心からの感謝のことばを贈りたい思います。そして何よりも、いつも変わることなく深い忍耐を持って尊き続けてくださっている、私たちの主なる神に心より感謝して、証しの結びとしたいと思います。詩篇136：1-4。

奉仕先

日本福音キリスト教会連合友好教会  
札幌国際キリスト教会

バイゴル

### 本科卒業生 百古 樂

この三年間の中で、多くのものを学び、私にとって貴重な経験となりました。最初は、これから大好きな神のみことばを学べると思ってワクワクし

ていました。しかし、学院生活が始まるとみことばを学ぶ以外にも、様々な奉仕や作業などのこともあります、初めのころは新鮮な感じで、学びと訓練だと喜んで取り組んでいましたが、それが段々変わっていました。学びの内容が濃くなり、課題なども多くなり、重くなってきたことで、私も「勉強する時間がない、何でこの作業をしなければならないのか」とつぶやくようになりました。

特に二年生になると、娘も生まれて、妻と二人で全然未経験のままで、子育ても始めました。勉強も家庭も教会奉仕も、どれも中途半端のようになって、心の中でどちらにも申し訳ない気持ちでいっぱいでした。しかし、その中で、助けとなつたのは、皆様の祈りと助けでした。

このように、一番大変な時を経てきましたから、これから大丈夫でしょう、と思っていたら、卒業論文という試練にあいました。卒業論文を提出する時間が近づいている中、いろいろな出来事が起こって、また、勉強する時間がないとつぶやくようになってきました。その中で、気づかされたのは、牧会に出たら、このような感じではないでしょうか。様々なことが起こる中で、それらと向き合うと同時に、みことばに学んで、みことばを宣べ伝えるという働きがこれからの奉仕ではないですか。と教えられました。

三年間でみことばももちろんたくさん教えられましたし、それ以外にも多くのことを教えられました。今後も、神様に頼って、へりくだつて主に仕えていきたいと思います。主の恵みと皆様のお祈りと支えを心から感謝いたします。

## 短期信徒コース修了生



左から、李亨宰（4月より本科2学年へ編入）、  
三好陽之、今成歩

## 短期信徒コース修了生の証し

Hokkaido Bible Institute

日本イエス・キリスト教団  
札幌羊ヶ丘教会

### 短期信徒コース修了生 今 成 歩

神様に従って歩みたい。神様の御心を知りたいと意気込んでいた去年を思い出します。私は何か大きなことができるのではないかと思っていたのかもしれません。学院の一年間は、嫌というほど自分の内面と向き合いました。自分はどんな人間なのか…思考の傾向…今後はどうなるのか…いつまで続くのか…マイナス思考に嫌気がさす。祈っても状況は変わらず、泣く日々でもありました。

イザヤ30:15は示されていた御言葉です。私はイスラエルの民のように静かに主を信頼できず、一喜一憂し過ごしていました。主に信頼して歩むのは忍耐が必要でした。神様の計画を自分の思い通りに進めようとしていました。神様は学びの中で、御言葉、寮や教会生活などを通して、時間をかけて私を励まし、癒し、強め、道を進めて下さいました。長いと思っていた事も、必要な時間でリアルタイムな助けでした。御言葉を握って歩む大切さも身をもって知りました。

修了後の道が決まった時、私はすぐに受け入れ事ができませんでした。しかし、神様は様々な事柄を通して、私にこれが道だと示して下さいました。私には一寸先はわかりません。でもそれが信仰生活であり、忍耐や苦しみの中でも、いつもリアルタイムな神様が共におられる。がむしゃらに歩むのではなく、主に寄り添って。自分の歩調ではなく、日々主の御心のままに用いられますように。最後に…一年間、本当に楽しかった！聖書を学び、神様を知る喜び、共に祈り、賛美する喜びを感謝します。主に栄光あれ！

保守バプテスト同盟  
保守バプテスト津田沼教会

### 短期信徒コース修了生 三好 陽之

2020年3月に短期信徒コース生として1年の学びを終えました。そして、現在は茨城にあるキリ

スト教系NPO法人にて学童の仕事をしています。今の私は主に遣わされてここにいるのだと確信しています。信仰に基づく学童保育は、私にとってパズルのピースが当てはまったような仕事がありました。愛をもって接する必要性をいつも問われます。常に祈り、聖書に根差して、子供たちに行動を持って証していくことができるようになると願っています。

1年間の学びを一つの命題に要約するならば、「私は誰に従っているのか」ということでした。ヨハネ4章のサマリヤの女の箇所から何度も、キリストにこそ永遠のいのちがあるのだと教えられました。また、マタイ16章を深く味わい、私が神様のことよりも人ばかり気にしていたことに気づかされました。「否定はよくない！その人が良いならいいじゃん！」というような自分自身に根付いているこの世的な思考回路が、神様を否定しかねないことに気づきました。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従ってきなさい。」キリストは永遠のいのちです。この方にこそ従います。

働く前に一年間の学びがあったことは本当に宝となるのだろうと感じています。1年間ひたすらに聖書に浸り、主に向かっていった貴重な生活は、私にしっかりと土台を築いたように思います。仕事においても、教会生活においても公私変わらず、主を仰ぐ姿勢にしてくださった神様に心から感謝します。茨城県つくば市という地域に遣わしてくださった神様に全て委ね、これから仕えていきます。

## 新入生の証し

Hokkaido Bible Institute

日本同盟基督教団  
新札幌聖書教会

本科2学年編入 李 亨宰 ヒョンジエ

1999年アメリカに移民する前の韓国での生活は、人生の最高の価値は、富を持って、楽しむことが真理と同じことのようになったのでした。仕事で日本に住んでいたときも一番通った所はパチンコですし、移民した後の生活も、ギャンブルが出来るところに通いました。このように生きている愚かな自分自身を見て、もうここで死んだほうがよいと思い始めたのです。どのように死ねば良いか

を考え続けて日々を過ごしていました。

ある日子供の友人家族から、食事に招かれました。彼らから福音を伝えられ、翌日の教会にも招かれました。死ぬことも考えた私はその招待に拒絶せず、翌日に教会で会うという約束をしました。その日の夜中、不思議で私は悪霊に体が押さえられ動かせない体験をし、妻は娘が交通事故で血だらけになって、娘が死んでいるような幻が見えたという体験をし、私は死ぬことよりも恐ろしいことがあると思い始めたのです。次の日、教会を訪問しました。牧師は説教のなかで、私の心を見抜いているように、「恐れるな、恐れるな、恐れないで、イエスが一緒におられるから」と語っていました。私は本当に驚きました。その経験を通して私は死の後にも何か別の世界があることを悟り、クリスチヤンになりました。神様の恵みでした。

ある日、聖霊が自分に臨むことを体で感じる体験を通して本当の新生を経験しました。それと祈りの中で神様が50年の人生の振り返りを見させて、私の50年の人生を、神の恵みによって導いてくださった、と悟り、これから的人生を神様に捧げようと思いました。いま、宣教師になって日本にいることが嬉しいです。

「まことに、まことに、あなたがたに言います。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。しかし、死ぬなら、豊かな実を結びます。」  
〔ヨハネ12：24〕。

イエスの心、そして主の御言葉をいつも忘れずに日々過ごしていきます。

## 短期信徒コース生の証し

Hokkaido Bible Institute



日本福音キリスト教会連合  
興戸キリスト教会

短期信徒コース生

河合 良子

私が教会に行くようになったきっかけは、27歳の時「南山城地区開拓伝道」と銘打った集会に母に誘われて行ったことです。三浦綾子さん原作の映画「塩狩峠」がスクリーンいっぱいに映し出されていました。母は早速、次の日曜日から私を連れてプレハブの伝道所に通い始めました。

当時、私は結婚して3年目、新築の家に娘と3人。

楽しくて仕方がない、と言う日々でした。親孝行のつもりで行っているので、聖書の話題は他人事、みことばはまったく耳に入りませんでした。それで、母が亡くなると教会から離れて行きました。

それから後ずいぶん経ってから、思いだにしなかつた一人暮らしになった時、自分で自分の心のバランスがとれなくなり、七転八倒の苦しみがかぶさってきたのです。「今日も生きねばならんのか！」そんな日を過ごしながら思い出したのは、みことばの数々です。今の時のために、神様は20代の時からもう備えをしてくださっていたことに気付かされました。（詩篇119篇71節、詩篇91篇1～4節）

これから残された日々、病むことも、老いていくことも、動けなくなることも、人のお世話になることも使命、最後の使命を終えて、帰っていくのです。私は神様のことを少ししか知りません。神の大きさ、高さ、広さ、深さを知り、小さい光を頂いたなら、共に歩む人達の足元を照らしたいと思います。



日本福音キリスト教会連合  
自由ヶ丘キリスト教会  
短期信徒コース生

土屋 みのり

私が北海道聖書学院の短期信徒コースで学ばせていただきたいと思ったきっかけは二つあります。

ひとつは、C S教師や中高生キャンプの奉仕を通して自分の聖書知識の薄さを実感させられたこと。ひとつは、母教会で複数牧会の話が持ち上がった時、信徒である私が教会に、神様に対してできることはないのだろうか、と考えるようになったことです。

聖書をもっと深く学びたい、教会のために自分はどうに仕えていいけるのだろう、という思いと疑問が大きくなる中「短期信徒コース」という存在があることを知りました。

その存在を知り、聖書をより深く学び、中高生に仕えたい。どのように自分が母教会に仕えていいけるのか探りたい、と強く思うようになりました。

しかし、ただ「学びたい」という自分の気持ちだけで入学はできないと思い、神のみこころを求め、祈るようになりました。そのようにして悩み、葛藤する中、黙示録3：15から全てを委ねきれていない自分に気づかされました。さらにローマ12：2からその委ねきれていない自分を変えていただき、祈り続ける中で神様のみこころがわかるのだと教

えられました。

日々心を新たにし神によって成長させていただく学びの時としたいと思っています。

## 北海道聖書学院の コロナウィルス感染対策

北海道聖書学院 教師会  
学院長 松 元 潤

いつも北海道聖書学院のためにお祈りとご支援を戴き感謝申し上げます。

4月11日の第56回入学式直後に、札幌市と北海道は新型コロナウィルス感染予防対策で「緊急事態宣言」を発出しました。教師会は、札幌市の感染者数の推移、特に白石地区（学院所在地）での感染者急増状況を鑑みて、14日に5月6日迄の「一時休校」を決定しました。しかし事態の収束が見えず、5月7日より学院は遠隔授業システムを使ってのオンライン授業に切り替えて、一学期を開始しました。現時点では、先生方・学生たちの協力によって、すべての授業の発信・受信が守られています。この影響で一学期は7月15日迄とし、その期間の諸行事・講座は中止、或いは延期することに致しました。なお、教師会は5月22日に事態の収束、三密の回避及び衛生面の励行を踏まえて、6月9日より対面式授業を原則に、講師の諸事情を考慮して一部オンライン授業と並行して行うことにしております。

コロナ問題は、私たちに「行動変容」を求めました。このことは、私たちの世界や時代が大事にすべきことを大事にしてこなかった「生き方」を問う神の「警鐘」であり、一方で、ブレーキが作動しなくなった車のように滅びに向かう人間の罪を悲しむ「神の憐れみ」ではないかと考えさせられています。世界経済の停滞の中で地球環境は小さな改善に向かい、ステイホームの閉塞感の中で思いがけない人々がネットに溢れる諸教会の聖書のメッセージを覗く現象も生じています。今を主の恵みの時として、キリストだけが道であり真理であり命であることを確信する私たちは、なおりそろ主のわざに励みたいと願わされています。

祈り支えてくださっている諸教会、先生方、皆様の上にも、主からの恵みと健康が与えられますようにお祈り致します。

## 学院ニュース

NEWS

### ◆ 責任役員会並びに評議員会報告 ◆ (敬称略)

2019年度（2019年5月現在）の責任役員は中川昭一（代表役員）、ヴィドマー・はるひ、大山裕昭、木村恵一、吉本牧人、中村大輔、藤山勝彦、松元潤の8名です。評議員は小菅剛（議長）、三浦育子姉、サムエル・フィギリスタ、菜花和男、杉本博徳、村田晃、岡田順一の7名です。

#### <2019年5月21日(火)開催の責任役員会&評議員会>

2018年度会計決算及び財産目録、監査報告及び赤字補填処理。図書室拡充に関する件。工事施工業者変更と総工事費の検討（5月31日の臨時役員会にて施工業者と工事費を決定し、7月着工9月竣工で契約）。後任事務職員に関する件。

#### <2019年10月22日(火)開催の責任役員会&評議員会>

図書室拡充工事完成に感謝。この工事に伴う報告と返済計画を検討し、承認。遠隔地授業に関する内容及び予算計画（会議システム提供業者選定段階）。2020～21年度会計監査候補（須川清一兄、田村義治兄）を挙げた。舎監・吉田麻希子師の任期終了に伴い、任期更新（2020年4月～23年3月）を承認。2020年度の行事計画。

#### <2020年2月18日開催の責任役員会&評議員会>

責任役員&評議員の任期の確認及び変更（同窓会長・中村大輔→高橋政宣）。図書室拡充に関する収支残高（借入金含む）約367万円の処理及び当初返済計画の実施。遠隔地授業の具体的準備と計画の承認。2020年度のカリキュラム案を承認。2020年度予算案の承認。

### ◆ 特記事項 ◆

①退任：岡田順一（評議員）

新任：本多民生（評議員）

②遠隔地授業受講者は5地区6名が出席。システムは「Zoom」で速やかに導入。

③2020年度5月の責任役員会（WEB会議）で、2019年度の赤字約184万円を、仮受金（特別献金）150万円で補填した。諸教会による支援額が年100万円程度減収となっているので諸教会の財政の祝福を祈る。  
(以上、文責・松元)